

福島県現代俳句協会会報

第15号 2023年・夏

編集 福島県現代俳句協会会報編集部 春日 石彦
福島市八木田神明十三の八 090(6220) 4757

総会で合評会

通信句会30名参加

4月9日、福島県現代俳句協会総会に続いて、総会参加者13名による通信句会の合評会が行われた。なお、今回の通信句会には30名から30句の参加があり、選句（一人2句選）には39名が参加している。

合評会の司会進行をつとめたのは、大河原真青県現俳協副会長。司会者の指名により、当日配布された互選結果から、高得点句から順に、選んだ理由や感銘を受けた点などが発表された。今回の最高点は11点獲得の宗像眞知子さんの作の

大地震も戦も現土筆摘む

宗像眞知子

選句に参加した39名中11名が選んでいるので、3割近いヒット率だ。トルコ・シリアでの地震やウクライナへのロシアの侵攻など世界が直面する災害や危機の一方で、土筆を摘む平和な暮らしがある。それらはいずれも現実であることの再認識と平和を守り、日常

を愛おしむ心の大切さを詠んだことが多くの共感を呼んだ。次いで、得点第2位は7点獲得の唯木イツ子さん作の

春愁を猫に甘噛みさせておく 唯木イツ子

ふとしたことで心がくもる春。春なればこそ、そこはかとな愁いを癒してくれるのは甘噛みをする猫だけなのだという。猫好きばかりでなく多くの共感を得た。

このように、高得点句から選句された各氏の感想などを聞いたほか、作者からは作品の出来た背景などもお聞きでき、有意義な時間を共有することができた。それも出席者全員に漏れなく発言の機会を与え、笑いもまじえて司会進行した、大河原真青副会長の捌きの妙によることが多い。次回はより多くの参加を期待したい。（高市宏・記）

【その他の高得点句（春日石彦・評）】

●6点句

悪友も達者か青首大根引く

池田義弘

大根をぐつと引き抜いた瞬間、何故か思い出

した懐かしい友のこと。今も元気だろうか。

大根の緑色の太さもリアルに見えてくる。

いぬふぐりみんなで咲いて請戸小 永瀬十悟

「みんなで咲いて」がいい。震災前の請戸小

の子供たち斯くありや。広々と咲く犬ふぐりの風景の美しさ。慰められる一句。

●5点句

薄氷や糸引くように母が逝く 清水菜紀

お母さんの臨終のおだやかで静かな時間の経過。「薄氷」と響き合うその繊細さ。

●4点句

揺れ動く吾の立ち位置雪の果て 宇川啓子

不安で不安定な自分の今の状態。「雪の果て」

の下五にそれをも受容する作者の姿がある。

あはゆきのひとひらづつの翳りかな

平子玲子

ひらがな表記が美しい。春の雪の一つ一つに

影があることを見出した作者の感覚。

東日本大震災忌鉄路鳴く 大河原真青

線路の軋む音から家の軋んだ大地震を想い出す。まるで生き物が鳴くように線路も鳴く。

風花の舞う日だったね綿帽子 草野志津久

白無垢と綿帽子の婚礼の日。風花を見ると幸せな気持ちで思い出す。柔らかな感触。

東北大会の成功を！

県総会
終了

令和5年度福島県現代俳句協会総会は4月9日、福島市の「コラッセふくしま」において、出席者13名、委任状25名で開催された。

特別議案を含む7つの議案すべてが承認された。

総会議案の詳細は別紙に記すが、今年度は9月に東北大会を福島主管で開催する予定で、「特別議案 令和5年度現代俳句東北大会に向けて」として、県内の会員は協力して準備・運営を担っていくことを確認した。特に若年層の参加を促すために「メディアで紹介してもらう」「学校や各種イベントでのPR」など取り組んではどうかという意見があった。

また規約の一部改正があり、顧問より県会費を徴取しないことが明文化されたこと、現状に鑑み「地区代表」を状況により省略できることの2点が改正された。新規約を会員に郵送しました。役員改選があり、以下の陣容で2年間県協会の運営を担っていくこととなった。席上、長年事務局長の重任を担ってこられた江井芳朗さんを「名誉会員」に推挙することが議決された。

新役員	
顧問	鈴木正治
会長	春日石疼
副会長	池田義弘
	大河原真青
	宇川啓子
事務局長	丹羽裕子
事務局次長	阿部忍み子
	高市宏
	藤巻淳
会計	植木國夫
監査	木幡ティ
	佐藤保子

会員作品7句

まあいいか

春日 石疼 (福島・小熊座)

鶏頭の斃れ地霊となりぬべし
秋空や死があそこならまあいいか
死はいづれ観念と化す冬の霧
「週末」と打てば「終末」冬の雷
枯藤の蔓脈々と土の精
目覚めれば十二月八日もしれず
三島忌のサクマ式ドロップスからからと

群青

北川信弘 (白河)

三杯目回転寿司のあさり汁
防人に届け強東風子等の声
天を向き群青歌う巢立つ子等
突き出すはまん丸頭露の薑
絵手紙の迫りくる色姫椿
雪虫や二の丸跡の空濠に
函館の夜景はてなく啄木忌

二十五時

片平 桂司 (福島)

春光にひるむ身体に飛ぶ風船
袖口の汚れが目立つ更衣
腎臓の一つはスぺア残り鴨
鳥招く柿の木の枝に蜜柑刺し
森林浴地球を食らう虫で居る
鳥雲に遺言めいた日記書く
春の夜の二十五時なる爪と鬚



前のめり

草野 志津久 (福島・小熊座)

ついと目をそらせる春の別れかな
黄水仙不在と共に生きるとは
帆船のとび出す絵本実朝忌
淋しいから木枯しの果て見に来たの
監督の子らより若し夏の雲
おしろい花孤独は水には溶けぬ
天竺牡丹一人暮しの前のめり

私を変えた一句

霧の村石を投らば父母散らん

金子兜太

約50年前、大学1年の時に私は初めて金子兜太のこの俳句を知った。農村育ちで地方のいわゆる駅弁大学の学生だった私はこの俳句に衝撃を受けた。農村の運命共同体的な重苦しい人間関係の象徴である「霧の村の父母」に対して石を投るといふ破壊行為によって因習でがんじがらめのムラ社会を変えることができるという、この句にはそんな幻想を抱かせるのに十分な詩的パワーがあった。中村草田男の「蟾蜍長子家去る由もなし」のような物分りの良い優等生の優男ではない野性的な力を感じたのだ。金子兜太は当時は前衛俳句の旗手と言われており、組合活動にのめり込んでいたらしいから、反体制的なアジテーションともとれるが、時代を映す詩としての深みと反骨の強い意志を感じさせた。大学生となり、初めて親元を離れた田舎学生を痺れさせるには十分なパワーであった。私はさっそうと、当時大学内にあった俳句サークルに入会し、俳句の世界に没入していったのだ。

高市 宏(郡山市)

明易き櫛にしるす生死かな

加藤 楸 邨

掲句は句集「火の記憶」に収録されている。

前書きに、「五月二十四日、一夜弟を負ひ、長女道子、三男明雄を求めて火中彷徨 一句」とある中の一句。

一読して、衝撃を受けた。東京大空襲による自宅焼失などの未曾有の惨劇の中で、精神的肉体的苦難を撥ね返す強靱さと冷徹さに、刺される様な感動が一気に胸奥深くに突き刺さった。

掲句と出会った当時は、東日本大震災から未だ一ヶ月余り。東京電力福島第一原子力発電所事故による避難中で、家族三人避難所暮らしであった。震災当日の三月十一日は、夕方近くになっても隣の学校に通う長男が帰宅せず、安否が不明であった。止む無く、二台の自転車で妻と探しに出た。混乱と大渋滞の旧国道を必死に走り、一切灯の無い夜の闇の中を、ようやく探し当てた長男を連れて自宅に戻った。そんな苛酷な経験も衝撃の一因だと思ふ。その後の生き方にも多大な影響を受けた事は勿論である。

渡部 健(千葉県香取)

県会員作品一句鑑賞

生きてる途中退屈もあり花八ツ手

唯木 イツ子

人間誰もが平等に一日は二十四時間と時間銀行から引き出して生きている。預時間が切れた時点で今世での人生が終る。「生きてる途中退屈もあり」がこの句の眼目で、一日一日一瞬一瞬の時間を大事に見つめて飽かない、作者の遊び心のはたらきが、侘びた花八ツ手に托し詠んだ、俳意確かな句と言つてよい。

(鈴木正治・福島)

クレヨンに肌色のあり夏の風邪

南 洋子

南洋子さんは、句会の仲間だった方です。亡くなる前年、真新しい手作りの句集を頂きました。掲句ですが、クレヨンの肌色のもやっとした感じと夏の風邪の取り合わせが意外ながらもぴったり。ところで、今はクレヨンに肌色という呼称はありません。「配慮」から、薄だいたい色に変わりました。クレヨンの肌色には、独特の雰囲気がありました。機会があれば、また洋子さんの俳句を紹介したいと思います。乞うご期待。(阿部多み子・福島)

私の好きな季語

「夏雲」 石澤 遙

「できれば夏の季語を」との原稿依頼が来た時、すぐに浮かんだ一句が次の句であった。

夏雲に浮いて私は異邦人

遙

私が十年以上も前に詠んだ一句である。次女が学業や仕事のためにアメリカや、イギリスへ住んだことがあった。そこで結婚し、子育てなどの折々に手助け滞在という形で出かけたときに詠んだのである。この季語が好き嫌いということよりすんなりと浮かんだのである。

夏雲はスカツとしていて豪快で気持ちが良い。外国での生活の合理性、考え方の基礎にある歴史とフレンドリーな気質など異邦人として学び、考えることが沢山あった。アメリカでの学園都市の在り方や、お産に対する仕組み、国際交流など、又イギリスでの住居など都市計画、交通対策、子育て仕組みなど大切なヒントを学ぶことができた。

異文化に触れ、日常にささやかなゆとりを得ることができたように思う。

ふらふら(こ)を漕ぐロンドンの見えるまで 遙

前号会報より

この句がよかった

国分 衣麻

虚火に家族がみえてくる千年

斎藤 秀雄

まるでシュルレアリスムの絵画を見るかのような鮮やかな風景句。虚火の「虚」と家族の「実」の取り合わせ。そのあわいの皮膜に千年の時空を据えて物語を醸し出す。読み手が想像をふくらませているうちに夢まぼろしの世界へと誘われてゆく。

白鳥はキーウの空に留まりて

藤巻 淳

ロシアのウクライナ侵略の戦況が伝えられる。「せめて白鳥よキーウの空に留まりキーウの人々を見守ってほしい」との作者の平和への願いが心に響く共鳴句。白鳥を神格化したことが巧み。

生きてる途中退屈もあり花八ツ手

唯木 イツ子

ここでの作者の意図する「退屈」とは暇で倦みあくのではなく、疲れて気落ちするといふ意味。その邪気を八ツ手の花に託された。八ツ手は邪気を祓う縁起ものとして玄関に植えられる。ちなみに南天は難を転じることか

ら植えられるそうである。

白鳥来身の寄せ合へる一枚田

鵜川 伸二

長い旅を終えた白鳥がお互いに労り、疲れを癒している風景。「身の寄せ合へる」「一枚田」の措辞で滋味にあふれた作品に昇華。

石仏のツイート溢れ冬堇

鈴木 亜由美

俳句って楽しいと思わせる作品。ツイートで石仏がブームになって未知の石仏にまみえられるという。日常の一コマ。冬堇で着地。

すんと秋すんとんと時つもる
どうせどうせ小心者よ百日紅

佐藤 保子

二句とも「すんと」と「どうせ」のリフレインが心地いい・金子みすゞの詩のような世界を五七五で表現された。眼をつむると童謡が聞こえてくるようだ。

へ編集後記v

今年のスギ花粉の飛散量は、ここ十年で最多と予想されて、花粉症デビューの人が増加したとも。それでも、俳句に詠めたらうれしいでしょうね。(E)